

『神と少年』

台本師 水瀬 真麗

※一人称、方言の改変あり。同性あり。

※●男性 ○女性

●「はあ、ノリで渡されたけどなんなんだよ。この本。≠たくさんのお神様をお傍に≠だ？こんなタイトルで喜ぶのは中学までだぞ？はあ……………」

(本をめくる音)

(紙が落ちる音)

●「ん？なんだこれ？」

(紙が光る)

- 「うわあっ！な、なんだ？！」
- 「我を呼んだのはお主か？」
- 「は？だ、誰だよ！お前！」
- 「は？とはなんだ。お主が呼んだのであろう。」
- 「だから、お前はなんなんだ！紙から急に出てきて。誰なんだよ！」
- 「はあ。礼儀の欠片もないな。わしは祭りの神○○○であるぞ」
- 「ま、祭り…の…神？」
- 「そうじゃ。ところで何の用じゃ」
- 「いや、別に呼んで…」
- 「そんなことはなからう！お主が呼んだから召喚されたのじゃ」
- 「俺はただ、本開いたら紙が出てきて。それが急に光って」
- 「なるほどな…偶然条件が揃ったというわけか…」
- 「条件…？」
- 「そうじゃ、この本はな。条件が揃うとその神様が召喚されるやつじゃ。

まあ簡単に言えば……パツと簡単にあなたのお傍に神様を☆ってやつじゃな」

●「お傍に神様を☆ じゃねーよ！ ったく……で？ この後お前どうするつもり？」

○「どうするもこうするも、1度召喚された神はこっちの条件が揃わないと帰れないのじゃよ。それとわしには○○○という名がある、お前と呼ぶな」

●「あーじゃあ○○○その条件ってのはなんなんだよ」

○「お主……仮にでもわしは神じゃよ？ はあ……まあよい。

条件じゃがそれが分からなくての」

●「は？ 分からないってなんだよ！」

○「それが分かればわしも苦労しておらぬわ！」

●「まあわかるまでここで過ごすしかないのか……」

○「よろしく頼むぞ。ところでお主の名はなんというのじゃ？」

●「あー俺な。俺は●●、平凡の一般ピーポーですよー。だ」

○「ほんつとに……礼儀がなっておらぬな……」

●「ひねくれててすいませんねー」

○「お主に力を授けようと思ったが。要らぬか」

●「力ってなんだよ！」

○「これでもお主らの言う異世界から来てる神じゃ、こんなこともできるのじゃ」

(SFチックな音)

●「これって！ステータスってやつか！現実世界で見れるとか予想外すぎるだろうっ」

○「ふふん 驚くがよい。」

●「それで？力授けるってなんだよ」

○「わしの力の少し分けてやる、これでお主の分のステータスが見られるであろう」

(SFチックな音)

●「うわあっほんとだっ！すげ〜」

- 「当たり前じゃが。タダであげた訳じゃないからな」
- 「はあ？なんだよそれ」
- 「当たり前じゃろう。お主にも帰るための条件探しを手伝ってもらうぞ」
- 「はあ？めんどくせーな、ったく…しかたねーな」
- 「元はと言えばお主が呼んだのが原因じゃからな！」

数日後……………

- 「で？結局探すってどーするんだよ？あれから数日間探すどころか、ぐーたらして寝てただの厄介者だぞ？」
- 「し、仕方なからう！探す手だてでさえまだわからんのだから」
- 「はあ…約立たず神じゃねーかよ。帰る条件の前に召喚された時の条件考えた方が現実的じゃね？」
- 「それもそうじゃのお主がわしを召喚した時の状況を詳しく教えてくれ」

- 「そうだなあ…そーいやあん時俺付き合ってた彼女に別れ告げられたんだよ。そんなときに友達がこれ持っておけば寂しくねーよとか言っただけで無理やり渡してきて、多分その時一緒に祭り行きたかったなとか思ってた…後イライラしてたと思う」
- 「なるほどな…：…祭りのことを思ってたからわしが召喚されたのはわかったけど召喚にまで至った条件の方は分からぬままか…イライラというのはなんじゃ？」
- 「俺の不甲斐なさで彼女に別れを告げさせてしまったこととか色々後悔があつてさ、多分そう言うイライラだな」
- 「ふむ、とりあえずお主が彼女とやらとしたかったことをしてみようか」
- 「は？え？なんでだよ！」
- 「だってお主がわしを召喚した時に考えてたのは彼女とやらのことじゃろ？それならばその子としたかったことをするのが一番の近道じゃ」
- 「理屈は分かるけど…なんでお前と…」
- 「つべこべ言っても仕方なからう！男ならシャキッとせいっ！」
- 「仕方ないか…：…じゃあ…：とりあえずあいつと行く予定だった…遊園地。行くか？」

- 「遊園地？とはなんじゃ？」
●「あくまあ楽しいところだよ着いてこい」

(遊園地到着)

- 「ここが遊園地かあ」
●「おう。そうだ」
○「なあ●●あれはなんじゃ？」
●「ん？あくあれなああれは花火だな」
○「ほほう、花火というのか！」
●「今は祭りの季節だからなあ、花火綺麗だろ？」
○「うむ！すごく綺麗じゃっ！」
●「っ……//……ふふ……綺麗だよな。ほんとに……」

(SFチックな音)

- 「ん？なんだ？好意を持った女性と祭りデート完了？これなんだ？」
- 「?! これじゃー！これ！これがこっちの条件だったのだな！」
- 「……っ：じゃあお前とも：もうここで終わりだな」
- 「そうじゃな、お主の厄介になるのも終わりじゃ。楽しかった。ありがとうな！」
- 「：な、なあ。もう少しさ：俺の厄介に：ならねえか？」
- 「どうゆうことじゃ？」
- 「も、もう少しさ！俺と：一緒に居てくれないかっ！って：」
- 「：っ／＼そ、そうじゃな……もう少し、この世界にいても悪くないなっ」
- 「じゃ、じゃあ！」
- 「うむ！これからもよろしく頼むぞ！本当にお傍に神様を☆が実現してしまったな(笑)」
- 「そうだな(笑)」